

西景広審発第 2 号
令和 5 年 6 月 14 日
(2023 年)

西宮市長 石井 登志郎 様

西宮市都市景観・屋外広告物審議会
景観アドバイザー一部会
部会長 川崎 雅史

令和 5 年度第 1 回景観アドバイザー一部会の議題について【答申】

令和 5 年 5 月 11 日付西都デ発第 5 号にて諮問されました標記の件について、
別紙のとおり答申します。

議題1 (仮称) 越木岩センター整備事業 (設計段階協議)

【意匠全般について】

- (1) 大きく道路に面して配されたガラスの開口は、軽やかな印象を与えるとともに、施設利用者の生き生きとした活動がまちに滲み出るといった効果を持つ反面、運転者が気を取られたり、内部の煩雑さが目立ってしまったりする可能性もあるため何らかの対策が必要。ブランド等に対応を検討する場合には、汚れや劣化による景観の悪化を考慮したうえで、適切なものを選定してほしい。
- (2) 壁の左官調塗材仕上げは凹凸があり汚れが付きやすいと思われるため、外壁の色を濃くして汚れを隠すような表面的な措置で終わらせるのではなく、水切り等で雨だれの跡が壁面に残りにくい納まりにするような根本的な措置を検討してほしい。

【外構計画について】

- (3) 北東角のデッキを含めた広場については、座る場所・活動する場所・敷地内外で流動する場所等を丁寧に見極め、以下の点に留意しながら、限られたスペースの中で住民の方が使いやすいものとしてほしい。
 - ▶デッキや植栽帯による高低差については、目的にあった高さの設定やそもそもの必要性の検討。例えば、レイズドベッドについては、高さによって住民の方の利用、管理のしやすさ等に違いが生じるので注意が必要。例えば、車いすの方が触れ合えるようにしたり、シンボリックにしたりするならば、ある程度高く設計する方が良い。
 - ▶ベンチについては、可動性のあるものの採用やデッキの高低差を利用した代替物の利用等による、スペースの有効利用。
- (4) 地域に開放されているが故にこどもの交差点への飛び出しなどの危険性がある。緑地計画などで、子ども達が入り出る動線を整理する等、安全性にも十分配慮した計画となるよう検討してほしい。

【植栽計画について】

- (5) 苦楽園周辺の植栽は和洋折衷であり、また、今回計画地では常緑樹が多いため、メインストリートに面する植栽帯D・E・Fには和風にも洋風にも使用できるような樹種、四季を感じる樹種選定をしてもよいのではないかと。具体的には、枝が伸びてメンテナンスのかかる常緑樹のシマトネリコから四季を感じるようなイロハモミジへの変更や、植栽帯Eにおいては枝が伸びやすく洋風のイメージが強いオリーブから苦楽園周辺でよく使われているヒメシャラ・ドウダンツツジ等への変更も検討してもらいたい。また、南のエントランスとなる植栽帯Fは暗めの樹種であるシラカシと常緑のシマトネリコだけとなっているのでここにも四季を感じる樹種を取り入れた方が良い。

【色彩計画について】

- (6) 基調色としての高明度の白色は特に塗装の場合色彩設計上扱いが難しく、突出して見

えやすい。このような立地特性の中にある公共施設なので、多少シンボリックなものでもよいと思われるが、かなり面積も大きいので、明るさを少し抑える検討が必要と思われる。汚れ対策の観点からも明度8以下程度に抑えてはどうか。

- (7) 縦要素の分節によってうまく繋がれている建物全体の印象が、1、2階を区切る帯状スラブの白色により分断されてしまう懸念がある。明度の設定を含め縦要素の見え方についても十分な検討をお願いしたい。
- (8) 全体のボリューム感について、例えば交差点に面して開口部を大きくとっている1、2階が建物の顔になってくることを考えると、3階の後ろに控えた講堂の部分は、ボリュームを分ける意図で明るさを抑える工夫もあるのではないか。
- (9) 今回計画の白は5Y8.5/0.5というY系のオフホワイトを選定しているが、ガラスを通して内部に見える木材の部分や既存のタイルとの相性を考えると、Y系の中でもよりYR系に近い2.5Y系程度、ほのかにベージュ味のあるホワイトの方が良いと思われる。最終的にサンプル等を数種用意したうえで比較検証してほしい。

以上